

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 2 月 12 日 (2015.2.12)

【公表番号】特表 2012-520047 (P2012-520047A)

【公表日】平成 24 年 8 月 30 日 (2012.8.30)

【年通号数】公開・登録公報 2012-034

【出願番号】特願 2011-553962 (P2011-553962)

【国際特許分類】

H 0 4 L 1/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 L 1/00 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 26 年 12 月 16 日 (2014.12.16)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シグナリング情報を符号化して伝送する方法であって、
前記シグナリング情報から一つ又は複数の符号化ブロックを生成するステップと、
前記一つ又は複数の符号化ブロックを含むフレームを伝送するステップと、を有し、
ここで、前記シグナリング情報の前記符号化ブロックを生成するステップは、
前記シグナリング情報のビット数を、前記シグナリング情報の伝送のために使用可能な副搬送波の個数と変調次数に基づいた、特定基準値で割って決定される値を用いて前記シグナリング情報を伝送するために生成される前記符号化ブロックの個数を決定するステップと、

前記符号化ブロックの決定された個数に基づいて各符号化ブロックに対応する情報ビットの数を計算するステップと、

各符号化ブロックで穿孔されるパリティビットの個数を計算するステップと、

各符号化ブロックで前記個数のパリティビットを穿孔するステップと、を有し、

前記特定基準値は、下記の式を満たすシグナリング情報の長さの最大値のうちの最小値として選択される

ことを特徴とする方法。

$$N_{L1}(K_i) = N_{L1_Cells} \times \text{MOD}$$

ここで、 $N_{L1}(K_i)$ は前記符号化ブロックの個数が i であり、前記シグナリング情報の長さが K_i である場合に、前記符号化ブロックの長さを表し、 N_{L1_Cells} は前記副搬送波の個数を表し、 MOD は前記変調次数を表す。

【請求項 2】

前記符号化ブロックの各々は同一の情報ビット数を含む

ことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記情報ビット数を計算するステップは、

前記シグナリング情報のビット数によってパディングビットを付加するステップと、

前記パディングビットが付加されたシグナリング情報のビット数を前記決定された符号化ブロックの個数で割って前記符号化ブロックに対応する情報ビット数を計算するステップと、をさらに含む

ことを特徴とする請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記穿孔されるパリティビットの数を計算するステップは、

前記符号化ブロックで臨時穿孔ビット数と臨時符号化ブロックの長さを計算するステップと、

前記変調次数と前記臨時符号化ブロックのビット数を用いて前記符号化ブロックの実際長さを計算するステップと、

前記臨時穿孔ビット数、前記臨時符号化ブロックの長さ、及び前記符号化ブロックの実際長さをを用いて実際穿孔ビット数を計算するステップと、をさらに含み、

前記臨時穿孔ビット数は下記の数式により決定される

ことを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【数 1】

$$N_{punc_temp} = \left\lfloor \frac{6}{5} \times (K_{bch} - K_{sig}) \right\rfloor$$

ここで、前記 N_{punc_temp} は、前記臨時穿孔ビット数であり、前記 K_{bch} は BCH ブロックの入力情報の最大ビット数であり、 K_{sig} は前記シグナリング情報のビット数にパディングビット数を付加したビット数であり、前記

【数 2】

$$\lfloor x \rfloor$$

は x 以下の最大整数を表す。

【請求項 5】

前記副搬送波の個数は一つの直交周波数分割多重 (OFDM) シンボルで定義されることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 6】

シグナリング情報を符号化して伝送する送信装置であって、

前記シグナリング情報を符号化するエンコーダと、

前記エンコーダから出力される一つ又は複数の符号化ブロックを含むフレームを送信する送信部と、

前記シグナリング情報のビット数を、前記シグナリング情報の伝送のために使用可能な副搬送波の個数と変調次数に基づいた、特定基準値で割って決定される値を用いて前記シグナリング情報を伝送するために生成される前記符号化ブロックの個数を決定し、前記決定された符号化ブロックの個数によって各符号化ブロックに対応する情報ビットの数を計算し、各々の符号化ブロックで穿孔されるパリティビットの数を計算し、前記決定された符号化ブロックの個数、前記計算された情報ビットの個数、及び各符号化ブロックで穿孔される前記計算されたパリティビットの個数によって、一つ又は複数の符号化ブロックを含むフレームで前記シグナリング情報を符号化する前記エンコーダ及び前記シグナリング情報を伝送する前記送信部の動作を制御する制御部と、を含み、

前記特定基準値は、下記の式を満足するシグナリング情報の長さの最大値のうちの最小値として選択される

ことを特徴とする送信装置。

$$N_{L1}(K_i) = N_{L1_Cells} \times \text{MOD}$$

ここで、 $N_{L1}(K_i)$ は前記符号化ブロックの個数が i であり、前記シグナリング情報の長さが K_i である場合に、前記符号化ブロックの長さを表し、 N_{L1_Cells} は前記副搬送

波の個数を表し、 MOD は前記変調次数を表す。

【請求項 7】

前記符号化ブロックの各々は同一の情報ビット数を含むことを特徴とする請求項 6 に記載の送信装置。

【請求項 8】

前記制御部は、前記シグナリング情報のビット数によってパディングビットを付加し、前記パディングビットが付加されたシグナリング情報のビット数を前記決定された符号化ブロックの個数で割って前記符号化ブロックに対応する情報ビット数を計算することを特徴とする請求項 6 または請求項 7 に記載の送信装置。

【請求項 9】

前記制御部は、前記符号化ブロックで臨時穿孔ビット数と臨時符号化ブロックの長さを計算し、

前記変調次数と前記臨時符号化ブロックのビット数を用いて前記符号化ブロックの実際長さを計算し、

前記臨時穿孔ビット数、前記臨時符号化ブロックの長さ、及び前記符号化ブロックの実際長さをを用いて実際穿孔ビット数を計算して前記穿孔されるパリティビットの数を計算し、

前記臨時穿孔ビット数は下記の数式により決定される

ことを特徴とする請求項 6 乃至 8 のいずれか 1 項に記載の送信装置。

【数 3】

$$N_{punc_temp} = \left\lfloor \frac{6}{5} \times (K_{bch} - K_{sig}) \right\rfloor$$

ここで、前記 N_{punc_temp} は、前記臨時穿孔ビット数であり、前記 K_{bch} は BCH ブロックの入力情報の最大ビット数であり、 K_{sig} は前記シグナリング情報のビット数にパディングビット数を付加したビット数であり、前記

【数 4】

$$\lfloor x \rfloor$$

は x 以下の最大整数を表す。

【請求項 10】

前記副搬送波の個数は一つの直交周波数分割多重 (OFDM) シンボルで定義されることを特徴とする請求項 6 乃至 9 のいずれか 1 項に記載の送信装置。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0050

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0050】

【数 7】

$$N_{punc_temp} = \left\lfloor \frac{6}{5} \times (K_{bch} - K_{sig}) \right\rfloor \dots (6)$$